

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18330163
研究課題名（和文） 来るべき日系南米人児童生徒就学義務化に対応する教育条件整備と教員養成研修の研究
研究課題名（英文） How to Prepare for the Coming Legal Obligation in Japan for the Newcomers' Children from South-America to Attend School: Necessary Conditions on Education and Training of School Teachers
研究代表者 所澤 潤 （SHOZAWA JUN） 群馬大学・大学院教育学研究科・教授 研究者番号：00235722

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：学校教育、外国人児童生徒教育

1. 研究計画の概要

全国各地の日系南米人児童生徒の増加に対して、就学義務化が実施された場合に要請される教育のあり方を、教育内容、生活指導、学校運営、保護者対応、教員人事、教員養成、教員研修など、様々な具体的側面からさぐり、十全な受入れ体制を構築する際の基礎的な情報を提供しようとするものである。

2. 研究の進捗状況

(1) 教育を受ける権利が保障されている今日、就学（教育）義務を新たに設定することで外国籍児童生徒の教育状況が大きく変化することが予想されることが明らかになった。

(2) 教員養成において、教職大学院で多文化共生に関する授業が進行している状況を追跡した。

(3) 小学生向けの日本語入門教科書を作成した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。就学（教育）義務についての議論は愛知県でシンポジウムを開き、200名以上集まった聴衆の反応から問題点を探った。また、教員養成の部分では、研究開始後、多文化共生を教育課程に含めた教職大学院が立ち上がった関係で、愛知教育大学と群馬大学の取り組みの違いを比較検討することができた。また教職大学院に入学した現場教師の目から見て、就学（教育）義務化によって何が求められると判断され

るかを探っている。学校現場の関係では、伊勢崎市の小学校が蓄積してきた現場の知をもとに日本語入門教科書を試作することができた。渡日前マニュアルについては現在使用されているものの評価を進めているとともに、ある教育委員会が過去に作成したものの改訂を行うことについて内諾を得ている。特別支援学校の教育については現在、連携研究者の指導院生が学校現場の調査を進めている。保育士の養成の面では研究協力者が保育士養成課程の学生の活動を通して、就学（教育）義務化によって新たに必要になるものはなにかを探っている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 教職大学院に入学し、多文化共生の授業を受講している現職教員院生に、就学（教育）義務化がもたらすものを検討させる。

(2) 同上の教職大学院の現職教員院生の目から、就学（教育）義務化が実施される場合に教員養成・研修において必要となることを検討させる。

(3) 試作した日本語入門教科書を現場で試用し、現場のどのような知が、就学（教育）義務化後の日本語教室等で生かされるべきかを検討する。

(4) 日本心理学会で「イメージ教育と外国籍児童への補償教育の共通点と異なる点」（仮題）をテーマとしたシンポジウムを行う。それをとおして、就学（教育）義務化によってより緊要な課題となる日本語教育と母語教育について、検討を加える。

(5) 就学（教育）義務が設定された場合に必

要となる渡航前マニュアルを試作する。

(6)就学（教育）義務が設定された場合に特別支援学校において必要となる条件を、連携研究者の指導院生（現職教員）をとおして検討する。

(7)保育士・幼稚園教諭の養成の面では連携研究者及び研究協力者が、学生の活動を通して、就学（教育）義務化によって新たに必要になるものはなにかを探る。

(8)高校進学について、現在の群馬県の指導の成果を探る。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

①所澤 潤「日系南米人児童生徒の在籍に対応するための教育実習の試行経験から」『教育実習研究』20 集、2007、pp. 14-15 査読なし

②江原裕美「ブラジルにおける日本語教育の現状と課題」『帝京大学外国語外国文学論集』13 巻、2007、pp. 25-62、査読なし

③中田敏夫「外国人児童生徒に対する日本人学生の意識調査からみえる外国人・日本人児童生徒の共就学の可能性」『愛知教育大学実践総合センター紀要』10 巻、2007、pp. 69-78、査読なし

④洪福財・林恵・所澤 潤・ほか「パネルディスカッションⅡ 外国籍の子ども、外国人配偶者の子ども」『群馬大学教育実践研究』24 巻、2007、pp. 520-541、査読なし

⑤江原裕美「日本における外国人受け入れと子どもの教育—ブラジル人の場合を中心に—」『帝京大学外国語外国文学論集』14 巻、2008、p. 17-44、査読なし

⑥所澤 潤「外国人児童生徒教育と群馬大学の教職専門大学院構想」『教育実習研究』21 集、2008、pp. 5-6 査読なし

〔学会発表〕（計 7 件）

①所澤 潤，日系南米人児童生徒の在籍に対応するための教育実習の試行経験から，第 20 回日本教育大学協会全国教育実習研究部門研究協議会，会場，2006 年 9 月 30 日，千葉大学

②所澤 潤，外国人児童生徒教育と群馬大

学の教職専門大学院構想，第 21 回日本教育大学協会全国教育実習部門研究協議会，2007 年 10 月 19 日，福井大学

③所澤 潤，外国籍児童在籍に対応するための教育養成と教員資格，日本国際教育学会，2007 年 11 月 24 日，国立台北教育大学

④古屋 健，学校の国際化と児童・生徒の異文化意識，日本国際教育学会，2007 年 11 月 24 日，国立台北教育大学

⑤江原裕美，日本における外国人受け入れと子どもの教育，日本国際教育学会，2007 年 11 月 24 日，国立台北教育大学

⑥所澤 潤，外国人児童生徒の教育を前提とした教員養成に向けた取り組み，日本国際理解教育学会，2008 年 6 月 14 日，富山大学

⑦所澤 潤，教職大学院の教育実習と現場体験，第 22 回日本教育大学協会全国教育実習部門研究協議会，2008 年 10 月 24 日，三重大学

〔図書〕（計 1 件）

①船戸嘉津実・古澤孝夫・田中亜子『やってみよう！ にほんご かんたん！』2009 年、60 頁、群馬大学大学院教育学研究科所澤研究室